

第VI項

独自の自然・文化を生かした 魅力ある千葉の創造



(提供:一宮町)

政策分野 VI - 1 千葉の魅力の向上と活用

豊かな緑や海、文化と優れた都市機能を有する本県ならではの魅力を向上させ、積極的に発信するとともに、千葉県で暮らすことの価値を広く周知することにより、人々が集う魅力あふれる千葉の実現を目指します。

施策項目 VI - 1 - ① 半島性を活用した「千葉」のブランディングと移住・定住の促進

目 標

三方を海に囲まれた千葉ならではの
多様な魅力のブランド化を進め、
「買う」「訪れる」「暮らす」につながる
“ちばの価値”を創出していきます。

現状と課題

本県は首都圏にありながら、三方を海に囲まれているという特徴を持っています。

そして、長い海岸線、切り立った断崖絶壁や美しい砂浜、波静かな入り江など、地域によって様々な表情を持つ房総半島の海そのものをはじめ、半島性が生んだ豊かな自然、海や大地の恵みがもたらす農林水産物や食文化、さらには万祝・大漁旗・波の伊八といった文化芸術などが生まれ、本県独自の魅力として存在しています。

他方、これらの魅力が「千葉県ならではの価値＝ブランド」として、県民や国内外の多くの人々に広く認識されている状況とは言えません。

そのため、千葉県の魅力を幅広く伝え、その価値を理解していただくことで千葉県のファンづくりを進め、「買う」「訪れる」「暮らす」といった行動につなげていく必要があります。

取組の基本方向

地域ごとに様々な表情を持つ本県の海の魅力を十分に引き出し、活用する取組を進めるとともに、千葉の海の独自性を生かしたブランド化を推進していきます。

また、千葉県産の農林水産物について、地域特産品目等のブランド化の取組を支援するとともに、県が開発した新品種について、知名度向上を図ります。

さらに、半島性など本県の特性が育んだ食文化や伝統文化、芸術など、多様な魅力を「ちば文化」と

してブランド化し、認知度向上を図るとともに県民の誇りと愛着を醸成していきます。

市町村や関係団体と連携して、多様なライフスタイルを実現できる地域の魅力等を発信するなど、移住・定住の取組を促進します。

様々な千葉の魅力をテレビ・ラジオ・インターネット等の各種媒体を活用して県内外、海外にも発信し、本県の持つ独自の価値を広く伝え、知名度、信頼度、好感度を高めます。

主な取組

VI-1-①-1 海の魅力の充実・強化

本県の海*は、地域ごとに様々な特徴を有するとともに、独自の文化が育まれており、それらの魅力の掘り起こしや更なる向上を進めてブランド化を図り、地域の活性化につなげるための取組の検討を進めます。

また、魅力の発信については、海の美しさだけではなく、朝にマリンスポーツを楽しんでからでも都内に出勤できるなど、海の魅力を「くらし」や「ひと」等に結び付けながら、千葉ならではの海の価値をPRしていきます。



海の魅力の掘り起こしと更なる向上

「くらし」などと結び付いた
千葉ならではの海の魅力の発信

海の文化の調査研究と保存活用の推進

豊かな海の恵みによる魚食文化の活用

マリンスポーツの振興

ちばアクアラインマラソンの開催



サーフィン(部原海岸)

ひとくちコラム

千葉県の「海」

三方を海に囲まれた本県は、海にまつわる様々な魅力を持っています。

九十九里の長い砂浜の景観や、東京湾岸での潮干狩り、南房総地域のダイビングスポットのほか、豊かな海のもたらす食文化、万祝や大漁旗といった文化芸術等、県民にとっても、訪れる人にとっても大きな魅力であり千葉県の宝です。「千葉の海」を県内外に知っていただき、千葉への郷土愛を深め、千葉の魅力を広めていくことが大切です。



VI-1-①-2 農林水産物のブランド力の強化

県オリジナル品種（米の新品種「粒すけ」など）や「チバザポーク」「チバザビーフ」「千葉ブランド水産物」など特徴のある産品を活用したプロモーションにより県産農林水産物全体のイメージアップを図ります。

飲食店や料理教室など多様な主体と連携し、料理に着目した本県の豊かな自然や地域の特色ある農林水産物を活用した新たな「食」のブランド化に取り組みます。

また、有害獣であるイノシシやシカの肉を「房総ジビエ※」としてPRし、利用拡大を図ります。

さらに、農林水産物の輸出促進に向け、他県との連携を積極的に図りながら効果的なプロモーションを実施します。

県産農林水産物の魅力発信・販売促進

県育成品種の認知度向上と高付加価値化に向けたPRの実施

料理に着目した新たな「食」のブランド化

地域資源を活用した魅力ある商品の開発(再掲)



県育成品種:日本なし「秋満月(あきみつぎ)」



県育成品種:米「粒すけ(粒すけ)」

VI-1-①-3 多様な「ちば文化」のブランド化

本県には、独自の食文化や地域の多様な祭り、江戸を感じる北総の歴史的な町並みなど、各地域において様々な文化が根付いており、そうした多様で豊かな「ちば文化」をブランド化し、様々な機会における魅力発信を行うとともに、「日本遺産」や「ちば文化資産*」を活用することで、「ちば文化」の認知度向上を図ります。

また、伝統の継承と創造の拠点である美術館・博物館等の調査研究機能と情報発信機能を充実させ、幅広い集客や利用を促進するとともに、ブランド力を高めることのできる文化財の調査研究と保存活用を進めます。

「ちば文化」のブランド化による
認知度向上と県民の誇りの醸成(再掲)

あらゆる人々が文化芸術に触れ親しむ
機会の提供、関心及び理解の促進(再掲)

ちばの多様な伝統文化を知る
機会の提供(再掲)

観光等の様々な分野と連携した
文化資源の活用と地域の活性化(再掲)

美術館・博物館等の機能の充実と
利用の促進

文化財の調査研究と保存活用の推進

SDGs



ひとくちコラム



「ちば文化資産」
ロゴマーク

ちば文化資産

「ちば文化資産」は、千葉県の文化的魅力を再認識していただくため、県民の皆様と共に選定した多様で豊かなちば文化の魅力の特徴づけるモノやコトのこと。伝統的なものから新しいものまで、現代建築や景観、四季折々の行事など、千葉県の様々な魅力が含まれています。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kkbunka/olypara-c/chibabunkashisan-top.html>



VI-1-①-4 地域の特性を生かした移住・定住の促進

東京への近接性や豊かな自然などの本県の強みを生かし、市町村や関係団体と連携を図りながら、地域の魅力や移住関連情報、地域に居住することで実現できるライフスタイル、二地域居住をはじめとする新たな暮らし方などを広く発信するとともに、市町村等の行う移住・定住促進のための取組を支援します。

また、千葉県への転職や県内就職を希望する若年者等の県内企業への就労を促進するため、県内の仕事や暮らしに関する情報等を一元的に収集・提供し、県内企業への就労を支援します。

市町村の移住関連情報や千葉ならではのライフスタイル等の発信

市町村と連携した移住相談会の開催

県内への移住や就労につながるくらしや仕事に関する情報の発信

県内の過疎地域等への移住者に対する支援



移住定住デジタルサイネージ

VI-1-①-5 「千葉」の魅力の戦略的な発信

千葉の魅力を国内外に発信するに当たっては、テレビやラジオ、新聞、雑誌、インターネット、県民だより等様々な媒体を活用し、景色、産品等の単体だけではなく、背景にあるひと・くらし・文化・歴史等のストーリー性を重視して発信することで本県のファンづくりを進め、「買う」「訪れる」「暮らす」といった行動の誘発につなげます。

また、イベントやSNS等においては、認知度の高まっている千葉県マスコットキャラクター「チーバくん」を最大限に活用するなど、戦略的なプロモーションを行っていきます。

ちばの魅力のブランディングと
情報発信

各媒体の特性を生かした
県政情報の発信

県産品・伝統的工芸品の魅力発信

「チーバくん」を活用した
戦略的なプロモーション

SDGs



チーバくんの広場

施策項目 VI - 1 - ② 地域の特色を生かした農山漁村の活性化

目 標

都市と農山漁村の交流の促進や、豊かな地域資源の活用により、農山漁村の活性化を図ります。

現状と課題

本県の農山漁村は、首都圏に位置しながら酪農発祥の地である「酪農のさと」や風光明媚な棚田、変化に富んだ海岸線といった地域資源に恵まれており、里山・里海の保全や、自然との共生、良好な景観の形成、伝統文化の承継など、かけがえのない多くの役割を果たしています。

また、都市部においても農業が盛んであり、園芸作物を中心に高収益な農業が展開されています。

さらに、全国一の数を誇る本県の農林水産物直売所や、県民が農山漁村の魅力に直接触れ合える農林漁業体験施設等は、農林水産業への理解を深めるための貴重な場となっているほか、都市の人々が滞在し、千葉の農山漁村を楽しむ「グリーン・ブルーツーリズム」の取組も広がっています。

一方、農山漁村では、高齢化の進行や人口減少に伴い農林水産業の従事者が減少しており、集落機能の低下や荒廃農地の増加、手入れの不足した森林の増加、藻場*・干潟の機能の低下といった課題を抱えています。

特に、イノシシなどの有害鳥獣による農作物等への被害は年間4億円前後で推移しており、生産意欲の減退だけでなく地域環境の悪化につながっています。

このような中、本県の豊かな自然環境や地域資源の魅力を積極的にPRし、都市との交流を促進するとともに、地域が一体となって集落機能の維持・強化を進めることで、農山漁村の活性化を図る必要があります。

取組の基本方向

千葉県豊かな自然環境の魅力を積極的に発信し、都市と農山漁村の交流を促進することで、農山漁村の活性化を図ります。

また、農村環境や森林、藻場・干潟等を保全する地域の共同活動を支援するとともに、房総半島の地理的特性や地域資源、農山漁村の歴史・文化を活用し、集落を支える活力を創出することで、農山漁村の多面的機能の維持を図ります。

加えて、中山間地域等における農林漁業者の所得確保に向け、地域特性を生かした経営モデルの提示や営農組織等への育成、6次産業化の取組等に対する支援を行います。

深刻化する有害鳥獣被害に対しては、地域ぐるみで実施する農地や森林の管理を支援するとともに、捕獲した有害鳥獣を地域資源として活用する取組を支援します。

主な取組

VI-1-②-1

農山漁村を支える活力の創出

農山漁村を支える活力の創出に向け、農林水産物直売所等の特色や地場産物の魅力を発信するとともに、直売所や観光農園等を活用し、農業・漁業体験及び地域の人々との交流や、農山漁村に宿泊し地元の食事や農業・漁業体験を楽しむ「農泊・渚泊[※]」の取組など「グリーン・ブルーツーリズム」を推進します。

また、県民等が森林などの豊かな自然に触れ合うことを目的とした「県民の森」や児童生徒への森林環境教育への活用を目的とした「教育の森」の利用を推進します。

農山漁村の集落機能を維持し、多面的機能を発揮させるため、農林漁業者等による集落共同活動や地域住民活動を推進し、水路・農道等の管理・補修や農村環境の保全などの活動を支援します。

また、里山の保全や海岸県有保安林の再生に向けた地域住民や企業、市民活動団体等による森林整備活動や、藻場や干潟の保全に取り組む漁業者グループの活動を支援します。

人口減少が著しい中山間地域においては、半農半X[※]などの集落を支える多様な人材の確保や地域の活性化に向け、市町村や地域で活動するNPO法人等との連携を強化します。

本県農業の特徴の一つである都市農業については、農産物の供給機能に加え、防災、景観形成、環境保全、農業体験・学習の場といった多様な機能を有していることから、都市農地の維持と適正な保全に努め、地域住民の理解醸成を図ります。

都市と農山漁村の交流促進

森林との触れ合いの場の創出

農山漁村における
多面的機能の発揮の支援

農山漁村における
地域共同活動等の推進

中山間地域における
集落機能の維持・活性化

都市農業の持続的発展と理解醸成



全国一の数を誇る農林水産物直売所



教育の森

VI-1-②-2 農山漁村における地域資源の活用

地域の特性を生かした農業経営モデルや、販売に有利な作物の導入など、現場のニーズに対応した振興策を提案するとともに、集落や集落営農組織の育成進捗に合わせた効果的なサポートを行うことで多様な農業経営を推進し、地域資源を活用した所得確保を図ります。

また、6次産業化に取り組む農林漁業者の経営改善に向けた支援を行うとともに、地域の農業や集落機能を支える経営規模の小さな農業者に対しても、新たな特産品の生産や加工品の開発、新たな販路の開拓など経営改善につながる取組などを支援します。

さらに、有害獣であるイノシシ、シカの肉を「房総ジビエ*」としてPRし、需要喚起を図るとともに、ジビエの処理加工施設の整備に対する助成や処理加工の人材育成を行います。

また、ファストフィッシュ商品の開発や低利用・未利用魚の活用、従来加工品の改良への技術支援を行うことで、地域水産資源の活用を図ります。

地域資源の高付加価値化の推進

「房総ジビエ」の利用拡大



ジビエ料理(鹿肉のラザニア)



ファストフィッシュ商品(アカエイの燻製)

ひとくちコラム

房総ジビエ

ジビエとは、フランス語で狩猟で得た野生鳥獣の肉のことを言います。

県内で捕獲され、指定の食肉処理加工施設で適切に処理・加工されたイノシシやシカの肉を「房総ジビエ」と銘打ち、房総ジビエフェアを開催するなど、消費拡大に取り組んでいます。

ジビエはクセが強いと思われる方も多いかもしれませんが、捕獲後に迅速な処理をした肉であれば、クセは強くありません。また、高たんぱく低脂質ということで、近年注目を集めています。



房総ジビエロゴマーク

VI-1-②-3 有害鳥獣被害の対策強化

有害鳥獣被害の低減に向け、専門家の知見も活用し、「防護」「捕獲」「生息環境管理」の3分野を組み合わせた総合的かつ効果的な被害対策を実施します。

また、各地域の農家や住民が主体的に鳥獣被害対策に取り組めるよう、対策の中心となるリーダー的人材を育成するとともに、市町村等で構成する「対策協議会」による実施体制の強化を支援します。

加えて、鳥獣被害対策の担い手を確保・育成するため、市町村における「鳥獣被害対策実施隊」の設置及び機能強化を支援します。



イノシシ用箱わな

「房総ジビエ」の利用拡大(再掲)

防護・捕獲・生息環境管理対策の推進

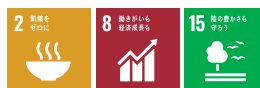
生息状況調査等の実施(再掲)

県による捕獲の実施(再掲)

市町村による
防除・捕獲への支援(再掲)

鳥獣捕獲の担い手の確保・育成(再掲)

SDGs



VI-1-②-4

海・漁業を生かした海辺・水辺の活性化

水産業・漁村の有する多面的機能を発揮させるため、藻場・干潟の保全や漁港施設の有効活用などに取り組む地域や漁業者グループの活動を支援します。

また、ホームページやSNSなど各種広報媒体の活用により、水産物直売所、漁家レストラン、マリレジャーや漁業体験施設等を紹介し、首都圏からの観光客の来訪を促進するとともに、郷土料理等海に関わる食文化や漁村の祭りなど、海に関わる伝統・芸術などを生かし、地域の活性化を図ります。

内水面漁業においては、種苗放流^{*}に対する支援など、内水面の水産資源の維持・増大を図るとともに、遊漁振興などの内水面漁業が有する多面的機能を生かした地域振興を推進します。

漁業と親水レクリエーションとの調和

水産業・漁村の有する多面的機能の発揮の支援

海・漁業の歴史・文化を生かした地域活性化



房総の漁業文化を象徴する着物仕立ての衣装・染物「万祝」(左)及び「大漁旗」(右)